

1. 教派—キリストのからだをつくる役割

- ・同じアイデンティティを持つ教派（例えばB I C）と外の教派は主の賜物とみる。
- ・B I Cは1950年代に、それまでの伝統的な考え方を大きく変えた。
 - ・例えば服装がそうであった。女性はケープドレス、男性はノーネクタイ、男女とも黒い服装など。音楽もそうであった。楽器はなし。アカペラで賛美。子供の頃はなぜB I Cは他の教派と違うのか分からなかったが、教派のうしろにあるもの、原則が重要であることが分かった。
- ・CORE VALUESにあるような信条は意味を変え様々な教派にもある。
- ・アナバプテストは迫害の歴史であった。アナバプテストが始まったのは記録によると、1525年1月17日スイス、チューリッヒに近いツォリコン村であった。それは「信じる者の教会」としてであった。
- ・B I Cの中で兄弟団ルター派とか兄弟団カルバン派などは認めないことは当然である。他の教派でも当然のことである。CORE VALUESを全世界のB I C会員に問う理由は21世紀に向けてのB I Cのアイデンティティの明確化である。もう一つ問題は、B I C会員の急増加に伴う教育的課題である。

2. CORE VALUESについて

1章 神の愛と恵みを経験する。

- ・B I Cの信条は一人一人神の一方的な恵みである救いにより、直接に神と向かい合うことができ、賜物を受け取ることが出来、万人祭司的なものである。それによって、主の恵みを受け入れ、奉仕をしていく。

2章 聖書を信じること

- ・聖書は私たちの最高の価値観であり、その上に私たちの生活を築く。
- ・聖書は最終的な規範であり、そのことはイエスの共同体によって確かめられる。
- ・旧約、新約で意見がわかれるとき、新約を優先する。
- ・アナバプテスト独特のアイデンティティは「新約」を優先するという事です。そうすると、では創造はとか、モーセの十戒は、など問が噴出します。マタイ5章で律法学者に語る。「しかし、わたしはあなたに言います。」イエスの語るのは、意味、判断についてであった。摂理についてはではない。

3章 神を礼拝する

- ①まごころから参加する。②主の栄光をきし、御霊によって励まされる。③人生を変革していく。
- ・礼拝の形式、建物の飾り物は重要視しない。
- ・初期の教会は素朴なものであった。
- ・老若男女がともに礼拝をする。このことはB I C的です。
- ・緑福音教会がこのようおこなっていることは素晴らしいことと思う。

4章 B I Cは特にイエスに従う（弟子の道）ことを求める。

- ①聖なる生活
- ②「殉教者の鑑」にあるように、信仰ゆえに迫害を受けることも辞さない。
- ③愛の実践、無抵抗。
- ④悪い行いに合わせない、この世から分離。
- ⑤宣教の業に励む

これらを徹底すると困難の道を歩むこともある。

（ピーター・ウィルムス宣教師の祖先の話）氷の池で、信仰を告白し、洗礼を授け合うことで、迫害されてきたが、追手の警官が凍った川に落ち込んだのを助けた。（敵を愛すること）

5章 信仰の共同体に属する。

- ・ B I Cは信仰共同体の一員であることを求める。
 - ・ アカウンタビリティ（相互説明責任）互いの弱さを認め、共に生きる。
 - ・ 複数によるリーダーシップと意志決定。
 - ・ 教会はフラットな構造。
 - ・ リーダーはサーバントリーダーであることが求められる。
-
- ・ B I Cの様々な根拠が語られる。メノナイト派の神学の中心は教会論であった。教会論は共同体論でもあるため、当然次のみことばが重要なことばとなる。

「ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はいち多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。」 I コリ 12:12
 - ・ 教会のリーダーというと牧師、教会教職者などのイメージが浮かぶものですが、B I Cではリーダーはサーバントフッドの賜物を持つ者がふさわしいとされた。それはマタイ 20：26 「あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。」教会形成が単に組織的なものではなく、いかに「交わり」フェロシップが必要であるか分かる。そして、複数で話し合う学び、フラットな教会構造。そのための教会づくり。
 - ・ アカウンタビリティは「説明責任」と今日言われている。医師が病状を丁寧に説明する、政治家が政情、審議など誠意をもって説明する時に使われます。メノナイト派の場合マタイ 18章、それに類比するみことばに根拠をもつ。それは教会のコイノニア(フェロシップ)の中にあるエクレスシア（愛にもとづいたジャジメント）としての働きである。

その際、訓戒、教会戒規、破門、キリストの規律、双方向の牧会ケアなどの言葉がある。

しかし目標は、マタイ 18章にもあるように、トマス兄が語る「互いの弱さを認め、共に生きる。」ことです。罪を犯した兄弟を共同体に回復することが愛です。

6課 宣教する。

- ・大宣教命令を重要視する。

生活様式と目に見える伝道・・天幕伝道、伝道集会、バイブルキャンプ。

7章 熱心に仕える。

- ・ホームレスへの働きなど
- ・洗足―謙遜を示す。

8章 平和を追求する。 マタイ5章を根拠とする。

- ・トーマス兄は、徴兵時に兵役に就くのではなく、日本での奉仕を選択。

9章 シンプルライフ

- ・シンプルライフは単に節約ではなく、主のため、また隣人のために用いられるライフスタイル。

- ・(例) トーマス夫妻：ミッション（使命）ための質素な生活

他人のために質素な生活をする

10章 神に全面的に頼る

- ・B I Cの教会は、世の出来事や政治について考える時も、最終的に、神に信頼するという信仰を持つ。神が土台、イエスが自身を捧げるという具体的な手本を示され、聖霊が内住し、私たちを変革し、導くという三位一体の神である。
- ・日本B I Cの教会は、B I Cの賜物を用いて仕え、日本の現代の状況を考えて働くべきです。身体にはたくさんの部分があるように、神の身体を建て上げる特別の賜物が与えられている。
- ・何のためにB I Cがあり、他の教派があるのかを考えることは、重要である。日本の生活や文化の中で、CORE VALUESを適応してください。